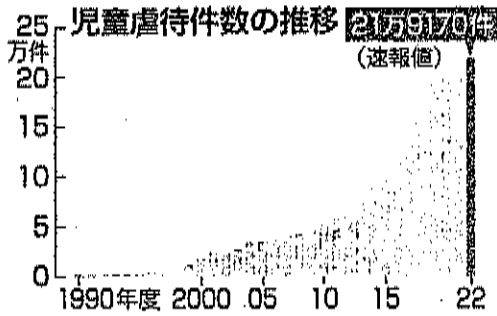


児童虐待最多21.9万件



22年度「警察から通告」半数超

子ども家庭庁

子ども家庭庁は7日、全国の児童相談所(児相)が2022年度に対応した虐待相談件数の速報値が前年度より1万1510件増え、21万9170件だったと発表しました。1990年度の集計開始以来、32年連続で最多を更新。警察からの

通告によるものが半数超を占めています。

対象は18歳未満の子ども。内容別では、言葉での脅しや、子どもの目の前で配偶者や家族に暴力を振るう「面談DV(ドメスティックバイオレンス)」を含む「心理的虐待」が12万9484件(前年度比47.6%増)で6割近くを占めまし

た。縄で拘束する、殴る蹴るなどの「身体的虐待」は5万1679件(同24.3%増)、「ネグレクト(育児放棄)」は3万5556件(同41.0%増)、「性的虐待」は2451件(同20.4%増)。相談経路で最も多かったのは「警察等」の51.5%で、次いで「近隣知人」11.0%。DVの通報を受けた警察が駆け付けた際、心理的虐待を受けたと見なして現場にい

た子どもを児相に通告するケースが増えているといます。また、子ども家庭庁の専門委員会は7日、21年度に虐待で死亡した子どもは前年度から3人減って7人だったと発表しました。心中を除くと50人で、このうち母親ら養育者が「予期せぬ妊娠」「妊婦健診未受診」の問題を抱えていたケースがそれぞれ約3割を占めました(複数回答)。